

地域課題の解決に向けた取組

～低コスト造林の実践に向けて～

上川北部森林管理署

はじめに

近年、主伐期を迎える人材が増加する中、この資源を伐採・利用することにより、林業を成長産業化させるとともに、伐採後の再造林を確保し、資源の循環を確実なものにしていくことが重要となっています。

一方、主伐後の再造林の費用、特に植栽や保育といった初期段階のコストが高く、加えて、林業従事者の高齢化や担い手不足が進んでおり、再造林を進めるつとえで、造林の省力化とコスト化が、地域の民有林・国有林の共通の課題となっています。



一貫作業システムによる地拵作業
(グラップルレーキ)



このため、当署では、伐採・搬出と同時に地拵・植栽までを行う「伐採・造林一貫作業システム」により森林整備を行った作業地などを活用し、低コスト造林の実践に向けて、次に紹介する項目などを重点的に取り組んでいます。

このため、当署では、伐採帶の中でも日陰となりやすい箇所と陽当たりの良い箇所で比較対照プロットを設定し、トドマツ天然稚幼樹の発生状況と照度との関係についての調査を行いました。現時点で、設定したプロット間における天然稚幼樹の発生状況に大きな相違はありませんが、引き続き天然更新の状況について経過観察していくこととしております。



アカエゾマツのコンテナ苗の生育調査

これまでのところ、全体を通してコンテナ苗は裸苗が初期生長が良く、活着率が高いといわれており、下刈回数や植栽本数を減らすことによって造林コストを削減することができます。しかし、北海道の主要造林樹種の一つであるアカエゾマツなどのコンテナ苗の初期生長などについては、十分検証されていない状況でした。このため、当署では平成24年度からコンテナ苗と裸苗を植栽した箇所で比較対照プロットを設定し、苗高及び根元径、生存率の調査を継続して実

このため、当署では、伐採帶の中でも日陰となりやすい箇所と陽当たりの良い箇所で比較対照プロットを設定し、トドマツ天然稚幼樹の発生状況と照度との関係についての調査を行いました。現時点で、設定したプロット間における天然稚幼樹の発生状況に大きな相違はありませんが、引き続き天然更新の状況について経過観察していくこととしております。

② 天然更新の促進

これまでのところ、全体を通してコンテナ苗は裸苗が初期生長が良く、活着率が高いといわれており、下刈回数や植栽本数を減らすことによって造林コストを削減することができます。しかし、北海道の主要造林樹種の一つであるアカエゾマツなどのコンテナ苗の初期生長などについては、十分検証されていない状況でした。このため、当署では平成24年度からコンテナ苗と裸苗を植栽した箇所で比較対照プロットを設定し、苗高及び根元径、生存率の調査を継続して実

① コンテナ苗の検証

これまでのところ、全体を通してコンテナ苗は裸苗が初期生長が良く、活着率が高いといわれており、下刈回数や植栽本数を減らすことによって造林コストを削減することができます。しかし、北海道の主要造林樹種の一つであるアカエゾマツなどのコンテナ苗の初期生長などについては、十分検証されていない状況でした。このため、当署では平成24年度からコンテナ苗と裸苗を植栽した箇所で比較対照プロットを設定し、苗高及び根元径、生存率の調査を継続して実

造林の低コスト化には、天然更新も有効な手法の一つです。天然更新が可能であれば、苗木代などの植栽コストの削減に繋がることが期待されますが、トドマツの天然更新には、光のコントロールが重要であるとされています。



トドマツの天然更新状況を観察するためのプロットの設定状況

今後も継続してデータの収集と検証を行い、造林の低コスト化に繋がる有益な技術情報を地域に発信したいと考えています。

おわりに

